

# 医心 伝心

## 研修医を医師会へ、そして勤務医の意見集約（フレームワーク）を

県医師会副会長 泉 良平

日本医師会は医師の組織化に腐心している。年間8千人を超える若い医師たちが誕生しているにもかかわらず、医師会に入会する医師たちはあまりにも少ない。結果として医師会の組織率は上がり、医師会は危機感を覚える。医師会組織化を進める日本医師会委員会での議論から、研修医の医師会費無料化による医師会加入促進策がすすめられ、ほとんどの都道府県医師会において会費は無料となり、郡市区等医師会でも同様の処置がとられている。しかし、平成27年12月での日本医師会の臨床研修医会員は2,422人であり、平成26年同時期の1,705人に比べてわずかな増加にとどまり、富山県でも同様である。研修期間を過ぎることから研修医会員でなくなることから単純な比較はできないが、医学部卒業者数を考えると多くない。医師会員の皆様には研修医への積極的な医師会入会勧誘に取り組んでいただくように要望いたします。

さて、医師会員が日本医師会の方策に意見を述べることは必要だが、実際に日本医師会執行部にそのことを伝えるのは困難である。地域医師会執行部として活動することが多い開業医とは異なり、勤務医の意見を日本医師会へ届けることは至難の技といってもよい。また、勤務医として日本医師会の方針に少なからぬ違和感を覚えることもある。そのようなとき、医師会を異質なものとするのではなく、意見を伝える努力を行うことは重要なことではないか。県医師会勤務医部会で、勤務医の

意見を日本医師会執行部に本当に届けることができるならば、勤務医は積極的に声を上げるとの意見が出された。平成26-28年度日本医師会勤務医委員会では、横倉日本医師会長の諮問「地域医師会を中心とした勤務医の参画と活躍の場の整備—その推進のために日本医師会が担う役割—」の答申として、勤務医の意見集約のためのフレームワーク（枠組み）を提唱した。郡市区等医師会での意見を県医師会に集約し、それをブロック別に収斂する。さらに、ブロックの意見を日本医師会勤務医委員会にて集約整理し、日本医師会勤務医理事長が日本医師会理事会に意見を提出するというものである。

このフレームワークの先進例として、中部医師会連合勤務医特別委員会が2年に渡り開催され、「医療事故調査制度」「新専門医制度」などが議論された。その内容は日医ニュース・勤務医のページにて報告されることになっているが、委員会では各県医師会から多くの意見を聴取でき、勤務医は決して問題を座視しているのではないことが理解できた。また、集約した意見を中部医師会連合委員総会にて報告することができた。多くの勤務医の思いを医師会に伝えることができれば、おのずと研修医のみならず、勤務医の多くが医師会活動に加わると信じている。そして、医師会活動がさらに充実したものになるよう努力したい。